

ぶな

2022年7月号

NO. 520



滋賀県勤労者山岳連盟 比良雪稜会

(巻頭言)

同行援護

H.W

日頃、なかなか山行にも参加できないのですが、日程が合えば視覚障害のある人の「同行援護」の仕事をしています。

「同行援護」とは「障害者総合支援法」に規定されている障害福祉サービスのひとつで「視覚障害の人が外出する時に介助者が付き添って外出全般のサポートをするサービス」のことです。

視覚障害者には全く見えないか光の明暗だけがわかる「全盲」と、少しは見えるものの日常生活に支障がある「弱視」があり、その見えにくさにも様々なものがあります。

私たちが日常生活で得る情報のほとんどは視覚からとされていますが、視覚障害者は「情報障害者」とも言われ、視覚的に示される情報へのアクセスに困難を抱えていることが特徴です。最近では点字ブロックの普及やスマートフォンなど電子機器の発達で少しは状況が改善してきているものの、介助者がいなければ外出も出来ない方が多くおられます。

何回か視覚障害者のウォーキングの会にもお供をさせていただいたのですが、いつも盛況で回を重ねる毎に参加者が増えている印象があります。

ウォーキングといっても、ほんの1、2時間くらい散歩する程度なのですが皆さん喜々として参加されています。歩いた後のランチタイムも楽しみようです。「たまには家の外に出て身体を動かしたあ〜い」という欲求は誰しも一緒なんだなあつくづく思います。

視覚障害者といっても元気な方がたくさんいらっしゃいますので、何らかのかたちで社会参加もできて、可能であれば色んなスポーツにもチャレンジしてもらえるといいですね。

街角で白杖を持っている人を見かけたら「お手伝いしましょうか」など気軽に声を掛け自然にサポートができる社会になっていければと思います。

<目次>

- ◆巻頭言・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- ◆目次・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
- ◆2022年度初級登山教室報告
 - ・京都北山・金毘羅山/クライミング入門1(5/14)・・・・ 3
 - ・八雲ヶ原テント泊・比良山縦走(5/21~22)・・・・ 6
- ◆例会山行報告
 - ・但馬妙見山(5/22)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10
 - ・関東例会 那須岳(5/28~29)・・・・・・・・・・・・・・・・ 12
 - ・第50回 クリーンハイク ①コース(6/5)・・・・・・・・ 15
 - ・第50回 クリーンハイク ②コース(6/5)・・・・・・・・ 18
 - ・荒島岳(6/12)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 19
 - ・鈴鹿 県境稜線を往く③(6/19)・・・・・・・・・・・・ 20
- ◆例会山行案内
 - ・岩稜歩行訓練・金毘羅山(7/10)・・・・・・・・・・・・ 21
 - ・比叡山と祇園祭宵山(7/14)・・・・・・・・・・・・・・ 22
 - ・大和三山(9/3)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 23
- ◆寄稿「スイスアルプスのトレッキング(4)」・・・・・・ 24
- ◆新会員紹介
 - ・自己紹介(T.O)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 26
 - ・自己紹介(K.Y)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 27
- ◆雪稜会予定表(2022年7月)

表紙写真 南アルプス中岳付近 お花畑
2019.8.1 K

〈2022 年度初級登山教室報告〉

京都北山・金毘羅山／クライミング入門 I

日 時 2022 年 5 月 14 日土曜日 小雨のちくもりのち晴れ

講師及びスタッフ T(彷徨倶楽部) N(彷徨倶楽部) K(滋賀山友会) H(比良雪稜会) K(比良雪稜会)

受講生 T(滋賀山友会) S(滋賀山友会) T(彷徨倶楽部) S(比良雪稜会) N(比良雪稜会)

8:40 寂光院駐車場出発 出発前に谷内摩弥子さん入会の自己紹介。

9:06 江文神社到着。クライミング装備を装着。2 回目のクライミング講習のため、前回参加した受講生は少しスムーズに装着出来ていたように思う。谷内摩さんは今回初めてなので、谷内さんに教わりながら装着。

9:26 江文神社出発。アプローチを歩き Y 縣尾根登山口目指す。

9:40 Y 縣尾根登山口到着。3 班に分かれ、クライミングシューズに履き替える。

① 川口・濱野・清水②谷内・塚本・谷内摩・中村③信森・川嶋・坂口

(注意事項)

雨の後で、岩が滑りやすいので、直角のところに足をおく。落石が危ないので、岩に背を向けて立たない。すぐに気付けるように岩に向いて立っておく。今いる場所から見える枯れ木の右側の岩が動くので注意。

(講習内容)

- ・セルフビレイは自分より高い位置でとる。メインロープと安全環付きカラビナで、クローブヒッチでとる。
- ・ビレイの仕方を教わり、受講生がビレイを担当する。
ビレイの仕方：グローブを使う。ハーネスのビレイループに安全環付カラビナでビレイデバイスの装着。装着するときビレイデバイスの向きに注意する。上側のロープがリードクライマーとなるようにロープをビレイデバイスに通し、カラビナにも通す。
右手はロープから手を離さず、繰り出したらすぐに下げる。リードの動きに合わせてロープを繰り出す。またロープを出し過ぎないように気を付ける。

② 班では

10:15 1 ピッチ目のリードは谷内さんで塚本さんがビレイを担当する。

11:15 2 ピッチ目塚本さんに見てもらいながら中村がビレイを担当する。リードの動きに合わせてロープを繰り出すのは難しかった。最後に登ったので谷内摩さんと塚本さんがいなくなると③班の声は聞こえるものの、不安を感じる。

12:20 3 ピッチ目ビレイ谷内摩さんがビレイを担当する。

13:00 4 ピッチ目ビレイ塚本さんがビレイ担当。出だし(左側)が難しく、正面右側より登る。塚本さんがロープの束が自分の左側にあったため、繰り出しにくいと言われていた。塚本さんに中村のロープを後ろにつけて登ってもらうがロープ

が絡んでしまい、何度か待ってもらおう。ロープを絡ませないように気を付ける。ほどいたままのロープは絡まるのでしっかりさばく。登り終わり付近、どこから登ればよいか分からず、川口さんに指示をもらう。

今回のY懸尾根の他のピッチは北尾根の時よりかなりピッチも短く登りやすかった。

13:45 ①②班はお昼休憩。

③ 班では

14:15 5ピッチ目、塚本さんリードの練習をする。谷内さんがビレイ担当する。塚本さんが正面右側から登ろうとし、足を滑らせ岩を背にして落ち、勢いが止まらず岩から少し離れた木にぶつかってしまった。怪我はなかったようで少し安心する。再び正面左側から塚本さんがリードとして登る。支点構築する場所を探しながら登るも支点構築する場所がなく上のほうまで登ってしまう。危険なため上からロープをおろしてもらおう。

15:15 全員集合しY懸尾根で下山の準備。③班はお昼休憩。今日の実技の感想反省を行う。6ピッチ目ができていればY懸の頭で懸垂下降の練習をする予定であったが、5ピッチ目で、下山予定の時間を過ぎていたため下山する。

15:39 下山開始。

16:11 江文神社到着。

16:42 寂光院駐車場。

(N：記)

〈一口感想〉

午後から足元の岩も乾いてコンディションは良くなりました。今回は受講生全員にトップのビレイをしていただきました。ロープ操作は慣れですが今後何回も練習して身に付けてほしいです。ロープの繰り出しでトップがどういう状態に置かれているか見えなくてもおおよそわかるようになれば、自分自身の山での気づきというか危機管理に役立つと思います。(谷内資)

岩を登ることは、すごく楽しめました。ただ、登るためにはそれぞれの役割を確実に果たし、スキルを高めなければ即命にかかわることがわかり、身の引きまる思いです。覚える事、身に付けるべきことが多すぎて混乱気味ですが、楽しむための努力をしたいと思います。(S口)

皆様、お世話になりありがとうございました。今回の実技講習はクライミングの基礎的な内容でした。ロープワークは、通常の登山においても必要な技術です繰り返し復習しましょう。また、岩稜帯縦走などのトレーニングとして、今回のY懸尾根を登山靴で登り下りすることは効果的な練習になると思います。(濱野)

岩場を自分が登る時、ビレイをする時、いずれも「先を読む」ことが大切になってきます。特にビレイ時には、クライマーの次の動きを予測してスムーズにロープをコントロールしなければならず、十分に経験を積む必要がありますが、その際、いくつもある判断ポイントの内、どの場面でどの点を重視するのか、常に意識しながら練習すると、いざとなった時パニックにならずに済むのではないかと思います。(N森)

今回の山行では、引き上げてもらってのクライミングだけでなく、ビレイヤーとしてのロープの扱いなどの体験やリードクライミングの体験などをさせてもらった。どれもロープやビレイデバイスの扱いに慣れていないこともあって、タイミングよくロープを繰り出したり、引き上げたりすることが難しかった。特にリードクライミングでは、50センチくらいの高さから落下して、幸いけがはなかったものの、ヒヤッとする一瞬があった。

なぜ落下したか考えてみると、左足スタンスがやや角度があるところに足を置いていたこと、右手のホールドが適切なところがなく左手のホールドと同じ所に手を掛けたため、右足を移動しようとした際、2点支持状態になって、荷物の重みもありからだが振れて、簡単に落ちてしまったのではないかと思う。三点確保を安定して保持できるよう心がけたいと思った。(T本)

前日からの雨が上がり貸し切り状態でじっくり講習できるかな？と思いましたが、クライミング講習2回目ではやはり手間取る所も有り、あっという間に時間が経ちました。次回はもう少し机上でシステムや流れを勉強してから挑戦したい所です。(川口)

今回は登りを中心とした研修。5ピッチも登った。ビレイの仕方も教えていただき、リードの動きに合わせてロープを繰り出すのがかなり力が必要で、特にシングルロープだったので太くて繰り出しが難しかった。見守られながらビレイはしているものの自分の動作に必死で余裕がない。リードが何かあったときにすぐに対応できるようになるのは非常に難しいと感じた。後、帰り際に初めてヒルにやられてしまった。幸いすぐ気がついたので一か所だけで済んだが、いまだにかゆみが残る。これからの時期、虫の対策も必要だと思った。(S水)

今回、下山時に顔の大きさ位の石を落としてしまいました。『ラク』と直ぐにコールしましたが、前を歩いていた谷内さんに当たってしまいました。幸い大丈夫との事でしたが、一つ間違えれば大事故になるところでした。下山で疲れていたり、集中力が無くなっていたのかも知れません。申し訳ございませんでした。クライミング時の落石を注意するのは勿論の事、その岩場への取付きへのアプローチ時も浮石等も多くて危険な状態である所が殆んどである事をいま一度頭に入れて、慎重に行動をしていきたいと思ひます。(K嶋)



(2022年度 初級登山教室報告)

八雲ヶ原テント泊・比良山縦走・読図

日時：2022年5月21日(土)曇り後小雨
～22日(日)晴

講師及びスタッフ：T(彷徨倶楽部) N(彷徨倶楽部) K(滋賀山友会) K(比良雪稜会)

受講生：N(比良雪稜会) S(比良雪稜会) T(滋賀山友会) S(滋賀山友会)

行程

- 【1日目】9:10 イン谷口出発～9:30 大山口～11:20 北比良峠～11:40 八雲ヶ原
＜昼食・テント設営（6人テント1、2人テント1、ソロテント3）＞
13:30 テン場出発～ヤクモ池南西部の散策（読図訓練・水汲み・ブナの巨木探し）～15:20 テン場着＜休憩・夕食・ミーティング・就寝準備＞
- 【2日目】4:00 起床＜朝食・整頓・準備＞～5:45 テン場出発＜縦走・読図＞～6:30
コヤマノ分岐 6:40 コヤマノ岳～7:16 武奈ヶ岳～7:30 細川越え～8:18 釣瓶岳～9:40 ナガオ尾根 991～（バリエーションコース）10:20 広谷～
10:45 テン場着＜テント撤収・昼食＞～11:40 八雲ヶ原出発～12:10 北比良峠～13:15 大山口～13:40 イン谷口到着

活動・学び

(1)計画書・食事計画書の作成

- ・出発を迎えるまでに、受講生で縦走のコースやタイム、食事内容などについて意見のやり取りを重ねてひとつのものに絞り、完成させた。
- ・山中での移動はできる限り早い時間に設定し、下山も遅くとも15時には終えること、最終下山期限日、日の出・日没時刻を記載すること、計画書は遭難時の手がかりであるばかりでなく遭難しないためのものであることを指導頂いた。

(2)テント泊

- ・実際に八雲ヶ原をあちこち歩いて風向き、地形、木々、草、ぬかるみの具合などを確かめて、テント設営場所を決定し、協力して設営。
- ・ツェルトも設営して頂き用途を学んだ。合わせて、トイレのないテン場での排泄物に関するマナーについても知った。
- ・飲み水の確保のために、沢を探し水を調達した。飲料として使うためには、煮沸や専用の浄水器が必要であることや、汲む沢も選ぶべきことを学んだ。

- ・調理メニューは様々な例があるが、今回は初級でもあり、シンプルなメニューとした。火を使用時、クッカーは常に手で支えておくことを注意された。
- ・撤収時には、テントの本体やシート、寝袋などに持ち帰りたくない虫等いなか点検した。(実際フライシートにマダニが付いていた。)

(3)読図・縦走

- ・散策、縦走において、常に地図とコンパスを手に読図訓練を行った。
- ・登山道にある分かりやすい現在地から目的地の方角を知るだけでなく、地図上にないバリエーションルートで自分の今いる場所を地図から実際のピークの形や地形の特徴を目で見つけて探すことの難しさを痛感した。

(4)リーダーとしての行動

- ・パーティーで移動する際、受講生は交替でリーダー役を体験した。先頭を歩いて方向を示すだけではなく、危険個所に気を配り、メンバー全員のペースや消耗具合、異変への気付き等求められることが大変多かった。

<一口感想>

皆さん体力があり、テント設営もてきぱきと出来て良かったです。初日にブナの巨木は見つかりませんでした。地図とコンパスを使って地形を見る練習になりました。翌日は好天で早めに出発でき、快調に歩けました。ナガオの入口に直接下りられなかったのは残念でしたが私も含めて地図読みの難しさが判ったと思います。(T内)

今回初日夕方よりパラパラと雨が降り始め夜中(私は18時位には寝たので定かでない)にそこそこ降り、明日は下山か?と思いましたが、明け方には雨は止み、快晴の中、当初の計画通り縦走する事が出来ました、主に地図読みでしたが、受講生の皆さん分かったり、分からなかったり、そしてスタッフも・・・。地図が読める様になると楽しくなりますので、これに懲りず繰り返し練習して頂ければと思います。

今回食事も個食でしたが、皆さんと楽しく過ごせました。機会があれば次は遠出したいですね。有難うございました。(K口)

比良雪稜会からの受講生はテント泊初心者なので、自ら衣食住をザックに詰めて担ぎ歩き、またソロテントで設営から撤収迄を経験する事が出来て大変良かったのでは...と思っています。今回、3つの会のメンバーでのパーティーでしたが、より一層チームワークが強固になった気がします。これからの講習がなんだか楽しみです。(K嶋)

コロナの関係で共同でのテント生活には制約がありますが、それなりに密度のある体験ができたのではないのでしょうか?

2日目は天気恵まれ、清々しい濃緑の季節を楽しめました。地図読みは言語を学ぶようなもので、最初は抽象的な記号の集まりにしか見えなかったものが、慣れてくるとだんだん視覚イメージと結び付いてきます。

なかなかピンポイントで場所を探し当てるのは難しく、複数人で読むと他の人の判断に引きずられがちなことにも注意が必要ですが、毎回想像力を働かせて練習するようにしてみてください。(信森)

テントで寝れるだろうか、重たい荷物を背負って歩けるだろうかと不安でしたが、楽しいテント泊を経験することができました。早朝からの比良山縦走は木々の緑がきれいで清々しく気持ちがよかったです。読図はまだまだ苦手ですが、いざというとき困らないよう練習していきたいです。(N村)

テント泊の荷物を持ってダラダラしたダケ道を八雲ヶ原まで登れるかが一番の心配だったが、無事何とか到着できたことが一番うれしかった。幻のブナの巨木は残念ながら見つけることができなかったが、またいつか出会ってみたい。途中で小雨も降ったが大事には至らず、夕食もみんなで楽しく食べることができて良かった。翌日は天気恵まれ、早出で出発したので早朝の山や木々のすがすがしい景色、雨に濡れてキラキラしたコケに感動した。読図だけでなく、リーダーとして先頭で歩くと緊張する。全体の動きなども見られるようゆとりを持つことが必要だと思った。読図は相変わらず苦手な難しいが、繰り返す中で少しずつでもわかるようになっていきたい。(S水)

今回の山行では、パーティーでのテント泊とバリエーションルートでの地図読みの練習を主に学んだ。テント泊は小雨の降る中での設営と夕食だったが、あまり風がなかったことや適当なテント場が見つかったことからスムーズに泊まることができた。食事も共同食というよりは個食というスタイルだったが、楽しく過ごすことができた。地図読み山行は、わかりやすい尾根道では現在地の把握も含めて順調に進むことができたが、尾根の終点からの下りをどの方向に降りるか、見極めが困難だった。下りの地図読みは慎重にこの指摘を体感した山行だった。(T本)

のしかかる重いザック、夜中にテントを叩く雨の音、トイレがない、計画書通り歩けるのか・・・不安材料がいっぱいだったが、多くのことを教えてもらい、充実の2日間だった。武奈ヶ岳に辿り着いて見渡せた景色がしんどさや不安な気持ちを消し去ってくれた。たくさんの赤ハラ、迷い猟犬、マダニとの予期せぬ出会いも興味深かった。読図はまだまだ経験を積まないと習得できないことも身にしみて分かった。(S口)



<例会山行報告>

但馬妙見山

日 時 2022年5月22日(日) 晴
参加者 CL N、 SL N、 F、 K、 N、 S、 I (記録)
行 程 JR 大津駅 (6:00) =大ナル登山口 (9:15) ~妙見キャンプ場跡地 (9:30) ~妙見山 (10:45~11:35) ~妙見峠 (12:10) ~名草神社 (12:50) ~大ナル登山口 (13:55) =植村直己冒険記念館 (14:15~15:55) = JR 大津駅 (19:00)

N 尾車・N 野車でそれぞれの地を出発し、JR 大津駅 (5:50) で両車そろって、西田さんに乗せ登山口に向かう。大津 IC から名神高速道に入り、中国自動車道一部通行止めのため、新名神・中国道・舞鶴道・北近畿道を経て大ナル登山口へ (9:00)。

9:15 歩き始め、車道の延長線である広い舗装路をしばらく上ると登山口の標識あり。ここより地道となるが道は十分広い。木の階段の登りとなる。キャンプ場の管理棟前を通過。キャンプ場管理棟を過ぎると水道のポンプ室のような建物あり。さらに進むと、ところどころに倒木あり。少し急登を登り休憩 (9:50)。この後、急登と平坦路が続き、その間、大木・巨木が沢山あり、神秘的な感あり。最後の急登を 50m ほど登り詰めると山頂 (1135.5m) に着く (10:45)。山頂付近にはコバイケイソウがあり。山頂標識は 1135m 地点にあるが、そこより少し奥に行くと山頂より高い 1139m 地点がある。山頂にて早めの昼食。

下山開始 (11:35)。妙見峠へ向かう。山頂までと同じく巨木の中を歩く。最初は尾根歩き。緩やかなアップダウンが続く。巨大な木の株があちこちに残っている。落ちていた木の枝に足を取られながら歩く。急な下りを降り切ると林道に出会う (11:55)。林道に沿った山道を歩く。このあたりから登りになり、その後は平坦路に近い登りになり、妙見峠に着く (12:10)。お地蔵さんが二体ある。峠から急な下りに。杉林の中を九十九折れに下っていく。ここから名草神社まで杉林で「妙見杉」と呼ばれているらしい。また、登山道に沿って、ところどころに丁石地蔵が鎮座。名草神社着 (12:50)。ここには、樹齢 1500 年の大杉の根株と幹がある。そして、本殿や三重塔もある。これより登山口まで名草神社へ行く舗装路を歩く。大ナル登山口着 (13:35)。これよりお楽しみの植村直己冒険館へ。冒険館着 (14:15)。

植村直己冒険館は、困難を乗り越えながら数々の冒険に挑み続けた植村直己の業績や人となり伝えるとともに、冒険者たちの夢を応援する施設である。

彼の少年時代から行方不明になるまでの、数々の映像・写真・使用したもの等々が展

示されている。館内を展示館の職員に案内してもらい、ゆっくりと見て冒険館を後にする（15：55）。

[一口感想]

薫風が心地よく、妙見山(1135・5m)は、美味しい 1/3 を登り・下りさせて貰い、快適ドライブ(416km)と宝塚北 SA でのウィンドウショッピング、植村直己冒険館では、リュック(25Kg)を背負う体験を。そのまま 地に潜るのではと思う重さでした。

バラエティに富む一日を、過ごさせていただきました(^_^)V

お世話さまでした。有り難う御座いました m(__)m

22:00 就寝 夏到来、激しい雷雨も子守唄に(@_@)

N 田

但馬妙見山頂にて



《山行報告》

関東例会／那須岳

日時 2022年5月28日～29日 天気 晴れ時々強風

参加者 CL I、SL F、K、H、S、K、O、F、O（9名）

28日 那須ロープウェイ山麓駅9:00 - 10:10 峰の茶屋跡(休憩) - 11:50 避難小屋(昼食)
- 12:54 沼原分岐 - 13:00 三斗小屋温泉(宿泊)

29日 三斗小屋温泉8:00 - 8:20 沼原分岐 - 9:00 峰の茶屋跡 - 9:50 茶臼岳 -
10:45 山頂駅側分岐 - 11:15 牛ヶ首 - 11:40 日の出平 - 12:00 南月山(昼食) -
12:50 日の出平 - 13:10 牛ヶ首 - 13:45 那須ロープウェイ山頂駅 14:00 == (ロープウェイ) == 14:07 那須ロープウェイ山麓駅



28日、出発時点では、天候は上々で穏やかな山行を期待したが、峰の茶屋跡に近づくとつれ風が強くなり、稜線に出ると何かに掴まないと飛ばされる程である。稜線での行動は中止し、三斗小屋温泉へ下ることとした。下るにしても不安があったが、たまたま通りかかった煙草屋旅館のホッカさんから「少し下ると風は弱くなる」と聞き勇気百倍、鎖に掴まりながら下山開始。確かに少し下ると風はおさまり、途中の避難小屋で昼食をとった後、午後1時に三斗小屋温泉に到着した。



三斗小屋温泉煙草屋旅館では、たっぷりある時間で宴会、温泉、食事を満喫。朝日岳のピークは諦めたが、個人的にはゆったり温泉を楽しむことが出来たので満足。

29日、昨日下った道を登り返し峰の茶屋跡に到着。風は強いが、両足で踏ん張れば耐えられる程度。茶臼岳への登りでは、強風に注意が必要なものの、朝日岳の景観や、広大な関東平野の眺めが素晴らしい。茶臼岳からは、強風を避けるため一旦ロープウェイ山上駅側に下り、南月山へ向かった。日の出平と南月山間の稜線は、ミソクラなどの花や茶臼岳の景観が素晴らしく、良い尾根歩きを楽しむことができた。そして、最後にロープウェイを利用し下山した。

最後にヒヤリハット。初日の稜線での暴風は、私も初めての経験です。はっきり“危険”を感じました。私自身、一瞬自分の身体が持ち上げられたし、何名かはバランスを崩し軽

い打ち身をしたと思います。大きなけがなく、全員無事に行動を終えることが出来て良かったです。



茶臼岳への登り



茶臼岳頂上にて



南月山までの稜線にて

以上

(一口感想)

あの超強風は、貴重な経験でしたね。

それでも美しい青空と清々しい新緑、ダケカンバの白い幹、
荒々しい火口や桜並木の快適な稜線には、大変癒されました！！

皆様、いろいろお世話になり、ありがとうございました。(近藤ひろみ)

初めての関東例会参加が強風のお迎えを受けました。あれほどの強い風は初めての経験で、初日の峰の茶屋での稜線では歩くのも困難。でも天気はよく温泉も最高でした。また山に挑戦したいと言う気持ちになりました。(藤野健太郎)

峰の茶屋跡手前から何かに掴まないと飛ばされる爆風が吹き荒れ、転倒者続出。
あんな怖い風の音初めて聞きました。

まさか、ポールとチェーンが転倒防止の命綱とは！

貴重な体験をしました。

三斗小屋温泉は 3 種類の温泉がありとても良いお湯で食事も美味しかった。今回は直ぐ小屋に行ったので長い宴会を楽しみました。

翌日も晴天ながら風が吹き荒れ、やはり朝日岳を諦め、茶臼岳、南月山へ向かう。
強風にあおられ身体をくの字に曲げヨロヨロとまるで酔っ払いの歩く姿(笑)。

晴天なので景色は抜群(ぜひブログで)!残り少ないミネザクラも見る事が出来ました。

伊東さんの最後の関東例会に参加できて良かったです。ありがとうございました。

(樋浦敦子)

風が予想以上に強く、突風の予想がつかず苦しんだが、天気は良く、那須高原の雄大さ、視界の限り平野が続く。関東平野の広さに改めて感心した。また、日の出平か

ら南月山に続く尾根筋も桜が咲いて気持ちのいい散歩道だった。リーダーに感謝
(古川哲郎)

初めて宿泊を伴っての関東例会。切符を買って無事、那須塩原に着けるかドキドキ。
はじめてのお使い状態でした。

天気は良いものの、今まで経験したことのない強風。リーダーの適切な判断で予定
を変更して三斗小屋温泉の宿へ。

絶景の露天風呂を楽しんだり、古川さんの誕生会をお祝いしたり、宿泊ならではの
体験がいっぱいできました。

二日目は強風にあおられながらも予定通り茶臼岳に登ることができ感激！南月山ま
での稜線にはミネザクラも咲いていて気持ちの良い山歩きでした。

強風もいい経験になったなあと思います。リーダーさん、ありがとうございました。
(清水昌子)

雪の飯豊山脈の近さに驚き美しさに感動し、北関東にいることを体で感じました。
爆風の中で行程の変更を決断する伊東リーダーは力強く頼もしかったです。

(小林智子)

一歩も進めず岩にしがみついた半端でない強風の一日目雲一つない青空、茶臼岳山
頂では遠くは飯豊山展望でき 変化に？富んだ貴重な例会でした。(大村智恵子)

〈例会山行報告〉

第 50 回 クリーンハイク（清掃登山）

南比良①コース 権現山～小女郎ヶ池

【日時】

2022 年 6 月 5 日（日） 【天候】曇り

【参加者 1 班】

N 高（CL・TC・注意事項・閉会挨拶）、H 史（SL・横断幕・計量）、H 美（受付チェック）、K 嶋（県連理事主催者挨拶・写真）

S 水（受付バスチケット）、S 井（受付配布物・記録）、K 藤（土嚢袋）

一般：6名 小計 13名

【参加者 2 班】

N 野（SL・TC・ストレッチ）、H 浦（SL・受付参加費）、H 島（サポート・背負子）、O 益（秤）、O 智（救急）、

S 藤（受付検温・サポート）、A 隅（滋賀山友会）

一般：6名 小計 13名

合計：当会会員 13名 滋賀山友会 1名 一般 12名 計 26名

【行程】

堅田駅＝（バス）＝平～アラキ峠登山口（開会式・準備体操）～権現山～小女郎ヶ池～蓬萊山～打見山＝（ロープウェイ）＝山麓駅にてゴミ分別計量・閉会式後解散

堅田駅 8 時集合。受付・検温・手指消毒・軍手ごみ袋配布等済ませ 8 時 50 分発のバスに乗車。バスは我々 26 名プラス数名で、それほど混雑していなかった。約 30 分で平バス停に到着し、安全な場所まで移動することに。数分歩いたところで大きく立派なマムシグサに遭遇。

アラキ峠への登山口にて開会式。西村会長より挨拶や注意事項等。“ゴミを集めながらも山も楽しみましょう”ともあり。主催者を代表して川嶋県連理事より挨拶、中野氏リードにより準備体操の後、9 時 45 分ごろ出発。

ゴミを探しながらゆっくりのペースで進む。所々で先頭の会長が倒木の邪魔な枝を鋸で切る。

10 時 45 分アラキ峠に到着。周辺のゴミ拾いをしてから休憩。大きな錆びた落下看板があり会長がハンマーなどで解体に挑んだが予想より頑丈で断念。

休憩後出発。道中蛇がカエルにかぶりついている場面に遭遇。蛇は人の気配に驚いたのか途中で逃げた。

11時40分権現山に到着。曇り空だが琵琶湖大橋も良く見え良い景色を拝めた。

12時25分ホッケ山到着。道中レンゲツツジ、タニウツギ、ベニドウダンが同時に見えるスポットあり。

13時05分小女郎ヶ池到着。周辺のゴミ拾いをしてから昼食。

13時30分 集合写真撮影後出発。

14時10分 蓬萊山到着。蓬萊山頂からゲレンデのゴミ拾いをしながら下りる。

14時30分 打見山に到着。②コース到着から約30分遅れの到着。

両コース全員集合し 全国連盟自然保護委員会による“清掃登山を成功させよう”の呼びかけ文を中村さんが読み上げ、拍手で採択する。

全国は49回目だが滋賀は50回目。清掃登山が滋賀から始まったのは誇らしい。

全員集合写真の後、ロープウェイにて山麓駅へ。

山麓駅にてゴミの分別・計量を行う。計量結果は下記(単位kg)のとおり川嶋理事より発表あり。

燃えるゴミ	3.5
燃えないゴミ	2
缶	0.5
ビン	2.5
合計	8.5

会長の閉会挨拶の中で、当比良雪稜会の清掃登山は夏原 Grant(平和堂財団の環境保全活動団体への助成機関)の助成事業である旨及び江若交通さんとびわ湖バレイさんの協力もいただいていることの報告があり、その後解散。

【まとめ】

予定通り無事清掃登山を終えることが出来良かった。ゴミは年々減少傾向でマナーが向上していることは素晴らしい。しかし、休憩によく使われるような場所ではゴミがまだまだ見受けられる。清掃登山の時だけではなく 日頃の山行時にも意識を高めていきたい。

記録報告：S井



権現山・小女郎ヶ池コース(①コース)全員集合

小女郎ヶ池にて

～山行報告～

<第50回クリーンハイク>

②コース 金毘羅登山道(蓬莱山・打見山)

実施日 2022年6月5日 曇り

参加者 K藤 CL・H野 SL・H池 SL・G阿弥 SL・N村・Y弥生・T利彦
・F川・N尾・N田・T啓子・I井・小野(記録) 13名

山友会 2名、一般16名 計31名

行程 9:00 蓬莱駅集合 = (タクシー、自家用車) = 10:00 野離子川砂防ダム
～11:10 金毘羅道登山口 ～ 13:00 蓬莱山 13:40 ～14:00 打見山 =
ロープウェイ山麓駅 15:40 解散

お天気は好転し薄曇り。蓬莱駅に集合し、タクシー組と自家用車組に分かれ野離子川砂防ダムで再集合した。各自 軍手をしハサミ・ゴミ袋を持ち準備が整うと、4班に分かれて出発。舗装された林道に沿って進みゴミを探しながら歩くが、田中さんの挨拶にもあった通り、近年は登山者のマナーが良いようで、ゴミは少ない。見つかると思わずしてやったりと笑みがこぼれた。かなり古い缶や作業用の紐、お菓子の包みなどが多く、中には一升瓶など大物を回収された方もいた。歩き出して約1時間ほどすると登山道に入り、そこからは九十九折に登りが続いた。登山道からは、ほぼゴミを目にすることはなかった。適度に休憩を挟みながら予定時刻に蓬莱山へ着くと、冷んやりした風に肌寒さを感じ、眼下には琵琶湖を一望した。山頂付近は観光客で賑わい、ここで昼食を済ませ打見山へ移動した。ロープウェイ乗り場付近で“権現山・小女郎ヶ池組”と合流し、ロープウェイにて下山すると、各自が集めたゴミを持ち寄り分別・計量し解散した。登山者のマナーは守られているようだ。

可燃ゴミ 9.0kg 不燃ゴミ 5.1kg 缶 0.5kg 瓶 5.5kg ペットボトル 0.1kg

合計 20.2kg



蓬莱山



打見山で全員集合

(例会山行報告)

荒島岳 (1,523m)

日 時：2022年6月12日（曇りのち晴れ）

参加者：N野CL、H島SL、K嶋SL、K林、K原、F川、S藤、S水、N村

行 程：集合 和邇川河川敷 5:00＝北陸自動車敦賀IC～福井IC～登山口駐車場

8：00～中出コース登山口 8：20～小荒島岳 (1,186) 10：35～ シャクナゲ平

11：05～もちが壁 11:20～中荒島岳 11:25～荒島岳 (昼食) 12:10＝12：45～シャクナゲ平 13:05～登山口 15:35～駐車場 15:45～南条 SA17：30 (解散)

例会では久々の日本百名山山行となった荒島岳は福井県大野市にある標高 1,523mの山で、別名大野富士と呼ばれて人気のある山です。

この日は車3台に分乗し敦賀、福井ICと走らせ登山口駐車場まで2時間(150km)を要して到着した。心配していた駐車スペースがあって早速出発準備にかかる。今日は中出(なかんで)コースに行くが他にも勝原(かどはら)コースがある。歩き始めて10分、登山口(標高400m)標識を見て左折、しばらくして登山道を示す矢印の方向に進む、山道はガスっていて湿度が高いのか早々に衣服調整の声、長い登りを雑談の声を響かしながら高度を上げる。依然として雲の中だが足元では各種の花々が迎えてくれ撮影が忙しい。小荒島岳には分岐から10分ほど登って着いた。笹に囲まれた山頂からは目指す荒島岳が眺望できるはずだったが残念、記念撮影をして分岐に戻る。分岐から30分でシャクナゲ平に着いた。ここは勝原コースからの合流点、なぜかシャクナゲは見当たらない。ぶなの青葉が眩しい山道を爽快に20分ほど歩いて、いよいよこの山の核心部、滑落注意の看板が立つ、もちが壁に取りつく、土砂が流され岩が露出した崖に見える壁には、鎖、ロープ、ハシゴがつけられていたが、ここは慎重に難なく突破、参加者の登攀力はすごい。そして前荒島岳、中荒島岳を経て12時10分荒島岳に登頂。山頂は、荒島神社の祠、一等三角点、立派な展望図台が設置され広くて整えられ百名山の風格を感じた。しかし残念ながら360度の展望はなく、風に雲を払ってくれと念じながら食事を摂った。

青空が見え隠れするも雲の取れない山頂に未練を残しながら下山開始、シャクナゲ平まで下ったところで青空が広がった、1時間遅い!と誰か言った。段差の大きい滑りやすい下りに汗しながらも、いつもながらのワイワイガヤガヤが途切れることなく全員無事に下山した。(13.6km、7時間40分、↑1345m) 記) K原



(一口感想)

残念ながら雲と霧で、小荒島岳から荒島岳も山頂から白山も見ることができませんでしたが、下山途中に見ることのできた麓の田園風景は、収穫前の麦の黄金色と田植え後の稲の緑でとてもきれいでした。また荒島岳登りたいです。 (N村)

標高差、距離とも大きく、構えて登りはじめたが、中出道ははじめは緩やかな林道が距離も長く、登りやすかった。霧が濃く眺望はほとんどだめだが、大きな杉の立ち枯れが目立ち、ちょっと幻想的??しかし、鹿害と思うと想いも複雑。(F川)

荒島岳は、小荒島岳にまだ、雪を残していました。気温は一桁で寒かったのですが、急登の連続、鎖、ロープありで気の抜けない大変さに大汗をかきました。4年前初めて登り、標高1500mをなめたらあかん、と思い知らされた山は、やはり、今回も険しく、達成感★★★★★。そして、緑の大木、美しい花々に癒やされる山でもありました。N野様、例会企画をして下さって本当に有難うございました。(S藤)

下見を含めて荒島岳に2回登りました。前回は天候も良くて、小荒島岳や荒島岳から残雪の白山が良く見えました。今回も期待しましたが、山頂からは全く視界不良で何も見えませんでした。しかし、日本百名山の荒島岳の険しさは十分に感じる事が出来ました。(N野)

<例会山行案内>

岩稜歩行練習（京都大原 金毘羅山）

ロープワーク、岩稜歩行の基礎練習を行います。内容は、北アルプスなどの一般ルートでの岩場を不安なく通過できる技術レベルとします。

日 時： 7月10日（日）

練習場所：金毘羅山Y懸尾根周辺

安全を期すため、クライミングロープを使用した登下降練習になります。

集合場所：和邇川河川敷 8:00

装 備：ヘルメット（必携）、山行時に携行しているカラビナ・スリング類（安全環付きカラビナ、スリング60cm、120cm等）、日帰り山行装備
※装備で手持ちがない方は、ご相談ください。

レ ベ ル：岩登り初級 体力★★☆☆☆ 技術力★★★☆☆

申込み先：H野 E-mail：yx_4444@yahoo.co.jp
TEL : 090-1152-5413

締 切：7月6日（水）

雨天中止 中止の場合は、前日に連絡します。

(例会案内)

比叡山と祇園祭宵山

この例会は、JP 坂本から大比叡に登りきらら坂を下って修学院まで歩き、ここから叡電と京阪を乗り継ぎ三条河原町に出て懇親会を行ったあと四条通りなどで始まった祇園祭宵山を楽しもうとする電車山行です。ただし、参加者のご都合もあると思いますので宵山散策と懇親会は自由参加とし、例会は京阪三条駅で一旦解散とする形をとります。

比叡山(大比叡848)は一等三角点のある滋賀の山で300名山とされる慣れ親しんだ山です。JR坂本駅から標高差760mを直登する本坂コースをゆっくり歩いて2時間30分で山頂に着きます。お昼は四明岳の下にあるつつじヶ丘展望台でゆっくり摂ります。下山は親鸞上人も京へと足しげく通った雲母坂(きらら坂)を下り1時間50分ほどで山行の終着修学院駅に着きます。(宵山散策と懇親会の順番は会場により変わります)

梅雨の天気と暑さが心配ですが、しっかり水分補給しながら近場の比叡山と3年ぶりとなる祇園祭の宵山を楽しみませんか。Bもあり・・・。

日 時：2022年7月14日(木)

集 合：JR比延山坂本駅 8時40分

行 程：坂本～本坂～延暦寺～山頂～つつじヶ丘～きらら坂～叡電修学院～

三条京阪(三条大橋)解散＝宵山散策＝懇親会(場所未定)

難易度：体力★★☆☆☆ 技術★☆☆☆☆

装 備：水・弁当・雨具(折りたたみ傘)・日帰り装備、ICOCA

担 当：K原 k-kohara@za.ztv.ne.jp

申込み締切り：7月11日(月) *懇親会参加の有無もお知らせください。

雨天中止：当日雨天予報の場合は中止。前日の正午までに連絡します。

(例会予告)

大和三山

(畝部山～香具山～藤原宮跡～耳成山)

橿原市にある大和三山を訪ねるウォーキングです。近鉄橿原神宮駅から橿原神宮の境内を抜けて万葉集にある畝傍山(199)に登り、神武天皇陵、本薬師寺跡、紀寺跡と歩き香具山(152)登りお昼にします。天香具山神社に下り藤原宮跡を見て耳成山(139)登り、近鉄大和八木駅で終点です。約14km

近鉄京都駅から橿原神宮前駅まで特急で1時間です。歩行時間は約5時間です。たまには、ゆるーい例会もいかがですか。残暑の中ですが・・・Bもありで。

日 時:2022年9月3日(土) 予備日 4日(日)

集 合:近鉄京都駅改札前 8時30分・・・45分発橿原神宮駅前行特急乗車

コース:近鉄京都駅＝橿原神宮前駅～橿原神宮～畝傍山～神武天皇陵～本

薬師寺跡～香具山～藤原宮跡～耳成山～大和八木駅＝京都駅

注)近鉄てくてくマップ⑱を参考にします。(当日配布)

難易度:体力★★☆☆☆ 技術★☆☆☆☆

持ち物:水、弁当、日帰装備、

担 当:K 原 k-kohara@za.ztv.ne.jp

締め切り:8月29日

雨天中止:雨天予報で中止する場合は前日の正午までに連絡します。

スイスアルプスのトレッキング（４）

N野T光

マッターホルンの麓の村のツェルマットの駅前通りで偶然男の子や女の子に引き連れられた約50頭の黒首ヤギの「ヤギの行進」を見ることが出来ました。ツェルマットの観光名物になっているようで、大勢の観光客が見物していました。ツェルマットはヴァリス州の人口約5,770人の村です。村内はガソリン車の乗り入れが禁止されており、馬車や電気自動車のバスやタクシーが主な交通手段です。マッターホルン登山の基地としてツェルマットは発展してきました。マッターホルン博物館ではマッターホルン形成の過程やマッターホルン初登頂の物語、またツェルマットの歴史などを学べる資料が多く展示されています。



ツェルマットのヤギの行進

魔の山と恐れられた標高4,478mのマッターホルンはスイスアルプスの象徴的な山です。マッターホルンは見る方向によってその姿が変わります。リッフェルゼーの湖では逆さに映るマッターホルンを楽しむことが出来ました。湖のほとりまで下ると更に大きくマッターホルンが湖に映ります。ステリゼーの湖でも逆さに映るマッターホルンを見ることが出来ました。

ツェルマットのシャレーを出発して、ロープウェイでシュバルツゼーまで行きヘルンリ小屋まで歩きました。更にマッターホルンの取り付けまで歩いてマッターホルンを真下から眺めてその雄大さに驚きました。マッターホルンの取り付けには、マッターホルン登頂を記念したモニュメントが貼り付けられていました。また、マッターホルン登頂時に第一歩をスタートした場所で記念撮影を行いました。



湖に逆さに映るマッターホルン



ヘルンリ小屋からのマッターホルン

マッターホルンを背景にしたマラソン大会が行われていました。ツェルマットをスタートして、礼拝堂のあるリッフェルベルクまでの標高差約 1,000m を走るのは非常に過酷なレースだと思われました。ゴール地点には多くの応援する人々が待ち構えていて、マラソンランナーが到着するのを今か今かと待っていました。



マッターホルンのマラソン大会



夕日を浴びたマッターホルン

ツェルマットのシャレー近くの橋から夕陽を浴びて黄金色に光るマッターホルンを見ることが出来ました。素晴らしい光景をしばらく眺めていました。何か神々しい姿を見たような気がしました。

スイスアルプスにはマッターホルン以外にも名峰が多くあります。最もスイスアルプスで高い山はモンテローザで標高 4,634m あります。次いで高い山はドムで標高 4,545m です。三番目に高いのはリスカムで標高 4,527m です。ヨーロッパで最も高い山はフランスとイタリアの国境に位置するモンブランで、標高 4,810m あります。

自己紹介

3月に入会しました 滋賀県草津市在住の **T.O** と申します。

山との出会いは、2005年に始めた山スキーがきっかけです。2011年には滋賀労山主催の初級アルパイン講習会に参加し、その時の前穂高北尾根は印象的で今でも鮮明に覚えています。登攀具を付けた初めてのスケールの大きな山行で、比良雪稜会の菅宏さん、伊東さんに支えられ、山頂にたどり着きました。感動というより緊張から解き放たれた瞬間でした。その後、夏はフリークライミング、冬は山スキーというスタイルが定着し今日に至ります。

中でも、山スキーは特別です。シールを付ければ板を履いたまま自由に山を登ることができ、機動力に優れた道具に変貌します。登りを楽しみ、滑りを楽しむ。まさに一番好きな山行形態です。

行先は県内をはじめ福井、岐阜が多く、スノーシューの方と山に入ることもあります。

夏は殆どフリークライミングに費やしてきましたが、今後はフリー一辺倒ではなくバリエーション、縦走、沢、ハイキングなど、様々なジャンルの山行を楽しんでみたいと思いますので、どうぞ宜しくお願いいたします。

自己紹介

はじめまして 6月から入会させて頂きました **K.Y** です。

大津市瀬田に住んで 20 年になります。

山口県出身で瀬戸内海の側で育ちました。結婚を機に京都市(伏見区・右京区)・彦根市・瀬田と。そして昨年からリフレッシュするために木戸に時々通っています。

琵琶湖が好きで琵琶湖博物館の年間パスポートを持ち、時折ふらりとカメラ片手に出掛けています。

木戸に 1 年間行くようになり、早起きして湖の向こうから昇る朝日、朝露の木々・草花、電車を撮り、神社参拝を日課にしていました。

ある日『山女日記』という TV ドラマを見ました。「山に登ってみたい」「山頂から見える風景を自分で見たい」と思うようになりました。

「そうだ！比良山系がある!!」(気付くのが遅いのですが…)

「どうやって登るの?」「一人で??」分からないことだらけです。

八屋戸の森の中にあるピザ屋さんのオーナーが「ここの 2~3 軒先に寺川さんという方がいらっしゃる。山男らしいよ!! 世界の山を登っていたらしいので紹介してあげますよ!!」と話して下さり紹介して下さったのが比良雪稜会を創設された寺川庄蔵さんでした。寺川さんが西村会長を紹介して下さったのが比良雪稜会を知ったきっかけです。

今年は「登山元年」にしたいと 3 月には音羽山に体験登山させて頂きました。森の中の空気、鳥の鳴き声、必死に登り 山頂ではパッと視界が広がりました。「やった!! 登れた!!」と達成感でいっぱいになり、嬉しくてたまりませんでした。

が、いざ下山し始めると、膝が痛い。両膝が痛くてたまりません。(やはり年齢には勝てない…?)

会の皆様には大変ご迷惑をかけてしまいました。

しばらくは自主トレーニングに励み、いつかハイレベルな会の皆様と一緒に登山出来たらと思います。

東に雄大な琵琶湖、西に比良山系という自然に囲まれた「滋賀の里山」「琵琶湖」の四季を登山を通してより深く味わっていきたいと思っています。

どうぞよろしくお願いします。



2022年7月予定表

1	金		19	火	
2	土		20	水	
3	日		21	木	
4	月		22	金	「ふな」原稿締切
5	火		23	土	
6	水		24	日	
7	木		25	月	
8	金		26	火	
9	土		27	水	
10	日	例会 大原・金毘羅山	28	木	
11	月		29	金	
12	火	第5回運営委員会	30	土	夏原グラント2022年度市民環境講座
13	水		31	日	
14	木	例会 比叡山と祇園祭	編集後記 多数の寄稿ありがとうございました。 次号もどうぞよろしく願いいたします。 CL		
15	金				
16	土				
17	日				
18	祝月				
8月の予定 14 日 例会 鈴鹿縦走④ 安楽越～832m峰					
今月号と来月号の当番 今月号は 来月号は					



比良雪稜会

滋賀県大津市和邇今宿 712-1 西村方

TEL&FAX 077-594-0454

E-mail kazuyo-buna@r.river.sannet.ne.jp

HP <https://aquafoal39.sakura.ne.jp>

滋賀県勤労者山岳連盟